

●参考資料1 継続的調査としての継続性に関する考察

1974年度に「化学物質環境実態調査」が実施されて以降、一般環境中に残留する化学物質の早期発見及びその濃度レベルの把握を目的として、種々の対象物質が選定され、調査が実施されてきており、2011年度においては「初期環境調査」及び「詳細環境調査」として実施されている。こうした年度別の調査とは別に、一定の調査対象物質を経年的に追う継続的調査として、1978年度に開始した「生物モニタリング」をはじめ、「水質・底質モニタリング」、「指定化学物質等検討調査」、「非意図的生成化学物質汚染実態追跡調査」及び「指定化学物質等検討調査」等が実施され、2002年度より「モニタリング調査」として実施されるに至った。こうした継続的調査の実施経過の概要は次のとおりである。

調査名称 ^(注)	実施期間	媒体	調査対象物質
生物モニタリング	1978年度～ 2001年度	生物（貝類、魚類、鳥類）	PCB類、HCB、アルドリン、ディルドリン、エンドリン、DDT類、クロルデン類、HCH類等
水質・底質モニタリング	1986年度～ 2001年度	水質、底質	HCB、ディルドリン、DDT類、クロルデン類、HCH類等
非意図的生成化学物質汚染実態追跡調査	1985年度～ 2001年度	水質、底質、生物（魚類、貝類）、大気	PCB類等
指定化学物質等検討調査	1988年度～ 2001年度	水質、底質等	トリブチルスズ化合物、トリフェニルスズ化合物等
モニタリング調査	2002年度～	水質、底質、生物（貝類、魚類、鳥類）、大気	PCB類、HCB、アルドリン、ディルドリン、エンドリン、DDT類、クロルデン類、ヘプタクロル類、トキサフェン類、マイレックス、HCH類等

(注) 調査名称は実施期間中の代表的なものであり、年度によって異なる場合がある。

1974年度から2019年度までのモニタリング調査対象物質の継続的調査における年度別実施状況は表1、継続的調査の年度別調査地点の状況は表2-1から表2-4のとおりである。

また、定量下限値および定量下限値については、2001年度の検出下限値は後述する「統一検出限界値」であり、2002年度以降の検出下限値は、分析を担当した民間分析機関における検出下限値である。なお、2002年度の水質及び底質は装置検出下限値(IDL)を、2003年度以降の水質及び底質並びに2002年度以降の生物及び大気は分析方法の検出下限値(MDL)をそれぞれ検出下限値として扱っている。

また、検出下限値の変化に対応した検出状況の変動については表3にまとめた。その際、地点の相違の影響を除外するため、継続して調査されている地点のみをみるとこととした。

検出下限値については、2001年度までの値と比べ2002年度以降の値が大きく改善している。

2001年度まで実施されていた「生物モニタリング」においては、主として地方公共団体による分析によっていたため、分析機関間の装置の違い等を考慮してデータ処理を行う必要があり、調査に当たりあらかじめ同一の検出下限値（「統一検出限界値」と称していた。）を設定し、データ処理をしてきた。用いていた「統一検出限界値」は、開始当初のGC-ECDによる分析を勘案して設定されたものであり、GC/MSが主流となっている現在の分析法では十分に定量可能な値であり、より高感度の分析を行った地方公共団体からは「トレース値」として別報告を受ける状況が続いていた。2002年度以降は分析機関が媒体ごとに一機関になったことに加え、高感度のGC/HRMSを用いた分析に移行しており、検出下限値は「統一検出限界値」に比べて一千分の一程度又はそれ以下となっている。

同じく2001年度まで実施されていた「水質・底質モニタリング」においては、開始当初からGC/MSによる

分析であり、水質は $0.01\mu\text{g/L}$ ($= 10,000\text{pg/L}$)、底質は 1ng/g-dry ($= 1,000\text{pg/g-dry}$) を「統一検出下限値」として実施してきた。2002年度以降は高感度のGC/HRMSを用いた分析に移行し、2001年度に比べて、検出下限値は水質で一万分の一、底質で一千分の一程度に下がっている。

「非意図的生成化学物質汚染実態追跡調査」におけるPCB類は、1996年度及び1997年度はGC/MSで測定されたが、2000年度及び2001年度は高感度のHRGC/HRMSにより測定された。このため、2000年度及び2001年度は1996年度及び1997年度の一万分の一程度の検出下限値となっている。2002年度以降は2000年度及び2001年度と同等の検出下限値であった。なお、コプラナーPCBについては1996年度よりHRGC/HRMS分析が行われていたため、2002年度以降とほぼ同等の検出下限値であった。

物質調査番号	調査対象物質	調査媒体	年度																																												
			'74	'75	'76	'77	'78	'79	'80	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87	'88	'89	'90	'91	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	'00	'01	'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
[24]	ジコホル	水質																																													
		底質																																													
		貝類																																													
		魚類																																													
		鳥類																																													
		大気																																													

物質調査番号	調査対象物質	調査媒体	年度																																												
			'74	'75	'76	'77	'78	'79	'80	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87	'88	'89	'90	'91	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	'00	'01	'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
[25]	ペルフルオロヘキサン スルホン酸 (PFHxS)	水質																																													
		底質																																													
		貝類																																													
		魚類																																													
		鳥類																																													
		大気																																													

・1974年度から2020年度までの調査地点の推移

表2-1 繼続的調査の年度別調査地点の一覧（水質）

地方 公共団体	調査地点	年度																				
		'86	'87	'88	'89	'90	'91	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	'00	'01	'02	'03	'04	'05	
北海道	十勝川すずらん大橋（帯広市）																■	■	■	■	■	
	石狩川河口石狩河口橋（石狩市）	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	■	■	■	■	■	
	苫小牧港	●	●	●																		
青森県	堤川河口（青森市）										○	○	○	○	○							
	十三湖																■	■	■	■	■	
岩手県	零石川																					
	豊沢川豊沢橋（花巻市）																■	■	■	■	■	
宮城県	仙台湾（松島湾）			○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		■	■	■	■	■	
秋田県	八郎湖			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	■	■	■	■	■	
山形県	最上川黒滝橋																					
	最上川須川合流点																					
	最上川河口（酒田市）																■	■	■	■	■	
福島県	阿武隈川																					
	小名浜港			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	■	■	■	■	■	
茨城県	利根川河口かもめ大橋（神栖市）																					
	利根川河口利根川大橋（波崎町）																					
	霞ヶ浦		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
栃木県	田川給分地区頭首工（宇都宮市）																■	■	■	■	■	
群馬県	利根川利根大堰上流（千代田町）																					
埼玉県	新河岸川																					
	荒川秋ヶ瀬取水堰（志木市）																					
千葉県	市原・姉崎海岸			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
	花見川河口（千葉市）								○	○	○	○	○	○	○	○	■	■	■	■	■	
東京都	荒川河口（江東区）																					
	隅田川河口（港区）			○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		■	■	■	■	■	
	東京湾中瀬			○	○	○	○	○	○	○	○											
横浜市	鶴見川河口																					
	横浜港			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	■	■	■	■	■	
川崎市	多摩川河口																					
	川崎港京浜運河																					
	新潟東港		●																			
新潟県	信濃川河口（新潟市）		○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		■	■	■	■	
	信濃川下流（新潟市）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	■	■	■	■	■	
富山県	神通川河口萩浦橋（富山市）																■	■	■	■	■	

地方 公共団体	調査地点	年度																																		
		'86	'87	'88	'89	'90	'91	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	'00	'01	'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20
山口県	徳山湾			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
	宇部沖																																			
	萩沖																																			
徳島県	紀伊水道																○	○																		
	吉野川河口（徳島市）					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
香川県	高松港	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
高知県	四万十川河口（四十市）			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
福岡県	大牟田沖	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																			
北九州市	関門海峡	●	●																																	
	洞海湾	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
	福岡市	博多湾				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
佐賀県	伊万里湾						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
長崎県	大村湾																																			
	長崎港					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
熊本県	緑川平木橋（宇土市）																	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
宮崎県	大淀川河口（宮崎市）					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
鹿児島県	天降川新川橋（霧島市）																			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	甲突川松方橋（鹿児島市）	●	●	●	●																															
	五反田川五反田橋（いちき串木野市）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
沖縄県	中城湾																	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	那覇港																	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

(注1) ○：非意図的生成化学物質汚染実態追跡調査において実施したことを意味する。

(注2) ●：水質・底質モニタリングにおいて実施したことを意味する。

(注3) ○：指定化学物質等検討調査において実施したことを意味する。

(注4) 「地方公共団体」は、試料採取を実施した地方公共団体の名称であり、複数年度実施している地点にあっては直近の年度に試料採取を実施した地方公共団体の名称を示した。

(注5) ■は水質・底質モニタリング及びモニタリング調査を継続して実施している地点を意味する。

- (注1) ◎：非意図的生成化学物質汚染実態追跡調査において実施したことを意味する。
- (注2) ●：水質・底質モニタリングにおいて実施したことを意味する。
- (注3) ○：指定化学物質等検討調査において実施したことを意味する。
- (注4) ■：モニタリング調査において実施したことを意味する。
- (注5) 「地方公共団体」は、試料採取を実施した地方公共団体の名称であり、複数年度実施している地点にあっては直近の年度に試料採取を実施した地方公共団体の名称を示した。
- (注6) □は水質・底質モニタリング及びモニタリング調査を継続して実施している地点を意味する。

地方 公共団体	調査地点	年度																				
		'00	'01	'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20
山口県	山口県環境保健センター（山口市）	◎	◎	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	萩市役所見島支所（萩市）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■									
	萩市見島ふれあい交流センター（萩市）												■	■	■	■						
	萩健康福祉センター（萩市）															■	■	■	■	■	■	
徳島県	徳島県保健環境センター（徳島市）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	徳島県立保健製薬環境センター（徳島市）												■	■	■	■	■	■	■	■	■	
香川県	香川県高松合同庁舎（高松市）	◎		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	香川県立総合水泳プール（高松市）							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	香川県環境保健研究センター（高松市）																					■
愛媛県	愛媛県南予地方局（宇和島市）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
福岡県	大牟田市役所（大牟田市）	◎	◎	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
北九州市	北九州観測所（北九州市）	◎																				
佐賀県	佐賀県環境センター（佐賀市）	◎		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
長崎県	長崎県庁（長崎市）	◎	◎																			
	小ヶ倉支所測定期（長崎市）			◎																		
	北消防署測定期（長崎市）			◎																		
熊本県	熊本県保健環境科学研究所（宇土市）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
宮崎県	宮崎県衛生環境研究所（宮崎県）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
鹿児島県	鹿児島県環境保健センター（鹿児島市）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
沖縄県	辺野古岬（国頭村）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	

(注1) ◎：非意図的生成化学物質汚染実態追跡調査において実施したことを意味する。

(注2) ■：モニタリング調査において実施したことを意味する。

(注3) 「地方公共団体」は、試料採取を実施した地方公共団体の名称であり、複数年度実施している地点にあっては直近の年度に試料採取を実施した地方公共団体の名称を示した。

(注4) □は非意図的生成化学物質汚染実態追跡調査及びモニタリング調査を継続して実施している地点を意味する。

2001年度以前の調査結果を含めた評価を行うに当たっては以下の点を考慮する必要がある。

・PCB類

2001年度以前に実施してきたPCB類の継続的調査としては、水質、底質及び大気については「非意図的生成化学物質汚染実態追跡調査」、生物（貝類、魚類及び鳥類）については「生物モニタリング」が該当する。これらの調査におけるPCB類の調査実績は、水質及び大気は2000年度及び2001年度の2年間、底質は1996年度、1997年度、2000年度及び2001年度の4年間、生物は1978年度から2001年度までの24年間である。したがって、生物については経年推移を評価するのに十分な期間にわたっての調査が実施されているといえる。

PCB類の調査地点については、水質及び底質の2002年度以降の調査地点は2001年度以前の調査地点を一部引き継いでいるものの、少なくない地点が入れ替わっている。このため、これらの媒体では2002年度以降と2001年度以前の残留状況の傾向を経年的に評価する場合には考慮を要する。生物では2001年度以前の調査地点・生物種の多くが2002年度以降にも引き継がれたが、2002年度に2地点・生物種（釧路沖のオオサガ及び祝言島地先のスズキ）が減り、2003年度に1地点・生物種（三浦半島のムラサキイガイ）が減ったものの、2005年度に1地点・生物種（釧路沖のシロサケ）の調査が、2008年度にも1地点・生物種（大分川のスズキ）の調査がそれぞれ再開された。経年的に評価する場合には、この点に留意する必要がある。大気の2002年度以降の調査地点は、水質及び底質と同様、2001年度以前の調査地点を一部引き継いでいるものの、少なくない地点が入れ替わっている。このため、これらの媒体では2002年度以降と2001年度以前の残留状況の傾向を経年的に評価する場合には考慮を要する。また、大気では2007年度の温暖期及び寒冷期並びに2008年度の温暖期にそれぞれ3分の1程度の地点で欠測となっており、経年的に評価する場合には、この点に留意する必要がある。

総PCBの検出下限値については、水質、底質、生物（「生物モニタリング」に係るものを除く。）及び大気ともに2001年度以前の値は、2002年度以降の値とほぼ同等であるため経的な評価に当たり支障はない。一方、「生物モニタリング」に係る検出下限値は、2002年度以降の検出下限値に比べて到底及ぶレベルではなく、検出頻度や幾何平均値（検出下限値未満の値は検出下限値の1/2として計算）により残留状況の傾向を経的な評価する場合には考慮を要する。また、検出下限値未満の検体が多いことから、中央値、70%値、80%値等で推移を見ることも困難である。

・PCB類以外のPOPs条約の発効当初から条約対象物質に指定されている物質及びHCH類

2001年度以前に実施してきた継続的調査としては、水質及び底質については、「水質・底質モニタリング」（1999年度～2001年度は「底質モニタリング」）、生物（貝類、魚類及び鳥類）については「生物モニタリング」が該当する。大気について継続的調査は実施していなかった。また、ヘプタクロル類については、全媒体において2001年度以前に継続的調査を実施していない。なお、2002年度以降においても、大気のHCH類は2002年度の調査では対象外であった。

PCB類以外のPOPs条約の発効当初から条約対象物質に指定されている物質及びHCH類における2001年度以前の調査実績として、水質及び底質ではHCB、ディルドリン、*p,p'*-DDT、*p,p'*-DDE、*p,p'*-DDD、*cis*-クロルデン、*trans*-クロルデン、*cis*-ノナクロル、*trans*-ノナクロル、 α -HCH及び β -HCHについて1986年度から1998年度までの13年間（底質は1986年度から2001年度までの16年間）モニタリングを実施した。オキシクロル

デンについては1986年度及び1987年度の2年間のみ実施し、その他の物質（アルドリン、エンドリン、*o,p'*-DDT、*o,p'*-DDE、*o,p'*-DDD、ヘプタクロル類、トキサフェン類、マイレックス、 γ -HCH（別名：リンデン）及び δ -HCH）については水質及び底質の継続的調査は実施していなかった。生物は、アルドリン、エンドリン、 γ -HCH（別名：リンデン）及び δ -HCHについては1978年度から開始されたものの2001年度よりも前に中断され、その他の物質（ヘプタクロル類、トキサフェン類及びマイレックスを除く。）については1978年度又は1983年度から2001年度まで継続的調査を実施した（調査開始年度は物質により異なる。また1997度及び1999年度には調査を実施していない物質がある。詳細は表4を参照のこと。）。

以上より、継続的調査を実施していない物質（ヘプタクロル等）及び媒体（大気等）については2001年度以前からの経年的な残留状況の傾向を判断できないほか、オキシクロルデンの水質及び底質、アルドリン、エンドリン、 γ -HCH（別名：リンデン）及び δ -HCHの生物については、過去の調査実施から間隔が開いたため2001年度以前からの経的な残留状況の傾向を評価する場合には考慮を要する。

PCB類以外のPOPs及びHCH類の調査地点については、水質及び底質の2002年度以降の調査地点は2001年度以前にはなかったものが大幅に追加されている。このため、これらの媒体では2002年度以降と2001年度以前の残留状況の傾向を経年に評価する場合には考慮を要する。生物ではPCB類と同様、2001年度以前の調査地点・生物種の多くが2002年度以降に引き継がれたが2002年度以降、いくつかの調査地点・生物種に変更があり、経年に評価する場合には、この点に留意する必要がある。大気ではPCB類と同様、HCBが2007年度の温暖期及び寒冷期並びに2008年度の温暖期にそれぞれ3分の1程度の地点で欠測となっており、経的に評価する場合には、この点に留意する必要がある。

総PCB以外のPOPs及びHCH類の検出下限値については、2002年度以降の値は2001年度以前の値と比較して、水質では一万分の一程度に、底質及び生物では一千分の一程度に下がっている。これに伴い検出数が大幅に増えており、検出頻度や幾何平均値（検出下限値未満の値は検出下限値の1/2として計算）により残留状況の傾向を評価する場合には考慮を要する。生物についても、2001年度以前は検出下限値未満の検体が多く、中央値、70%値、80%値等での推移を見ることが困難である。

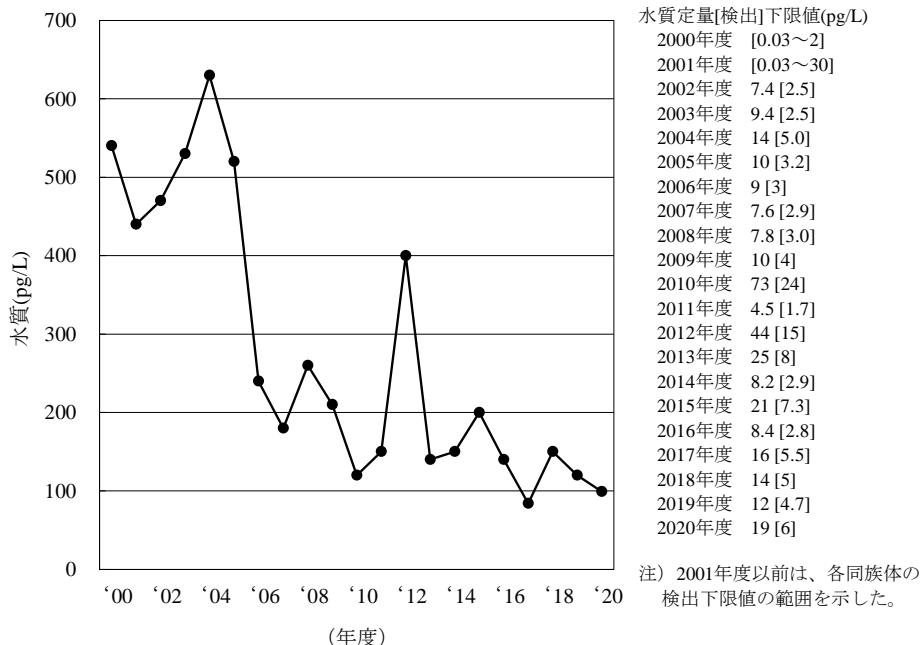
モニタリング調査は長期にわたり実施されてきており、その間に調査地点、分析法、生物種等の変更が行われている。そのため、調査開始当初と最近の調査結果をそのまま比較可能な値として扱うことは困難であるが、共通の調査地点及び分析法が同一である期間ごとにみれば継続性をもって評価を行うことができると考えられる。

特に水質のHCB、ディルドリン、*p,p'*-DDT、*p,p'*-DDE、*p,p'*-DDD、*cis*-クロルデン、*trans*-クロルデン、オキシクロルデン、*cis*-ノナクロル、*trans*-ノナクロル、 α -HCH、 β -HCHについては、2001年度以前に調査実績はあるものの、検出下限値が高い（10,000pg/L）ため検出頻度が低いことに留意が必要である。

2001年度以前からの継続的調査実施物質の経年変化は、図1から図7に示すとおりである。

・2001年度以前からの継続的調査実施物質の経年変化

[1] PCB類

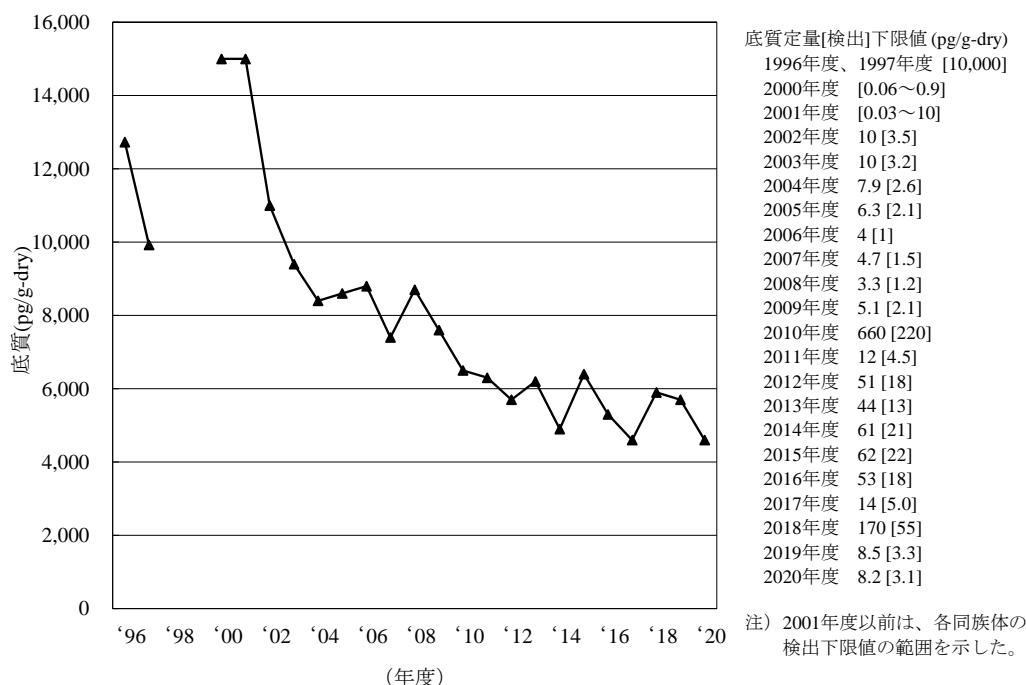


(注1) PCB類の水質については、継続的調査において1999年度以前に調査が実施されていない。

(注2) 2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

図1-1 総PCBの水質の経年変化（幾何平均値）

[1] PCB類



(注1) PCB類の底質については、継続的調査において1995年度以前に調査が実施されていない。

(注2) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注3) 1998年度及び1999年度は調査を実施していない。

図1-2 総PCBの底質の経年変化（幾何平均値）

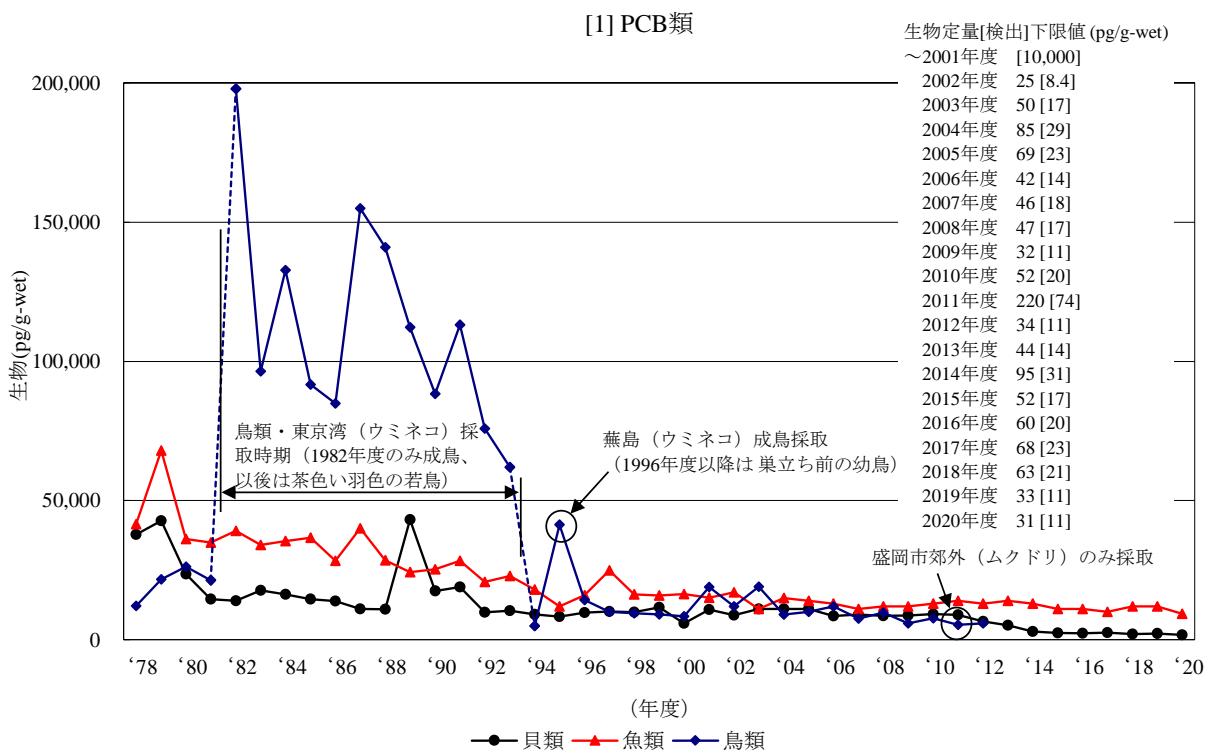


図 1-3 総 PCB の生物の経年変化（幾何平均値）

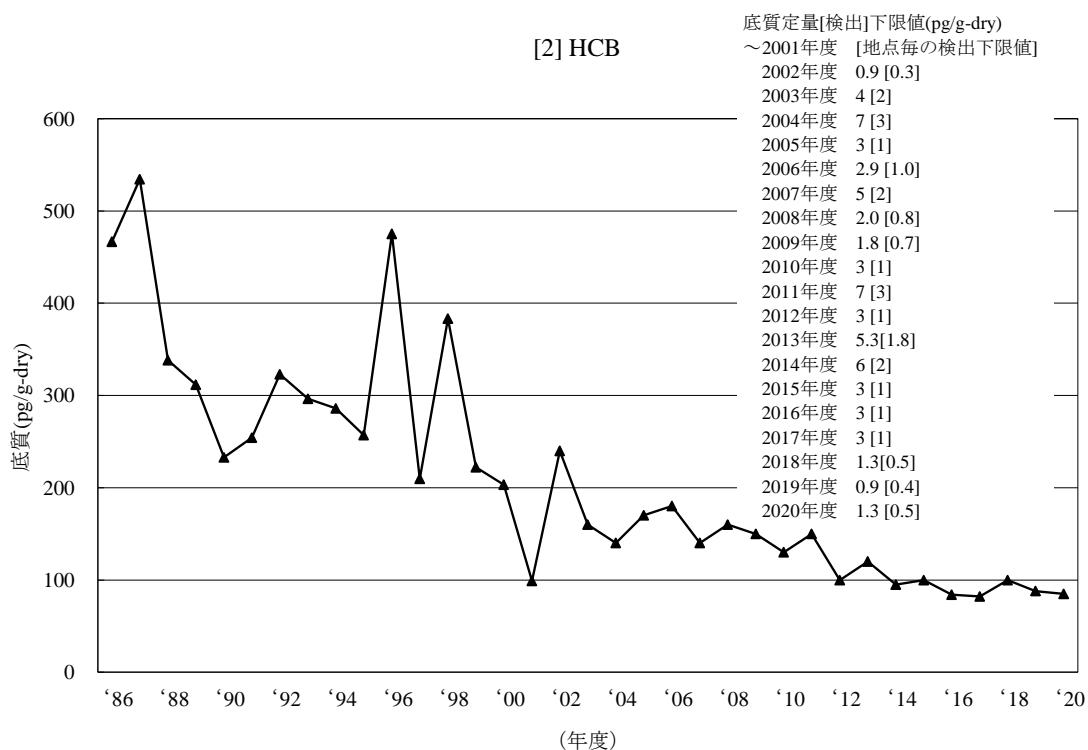
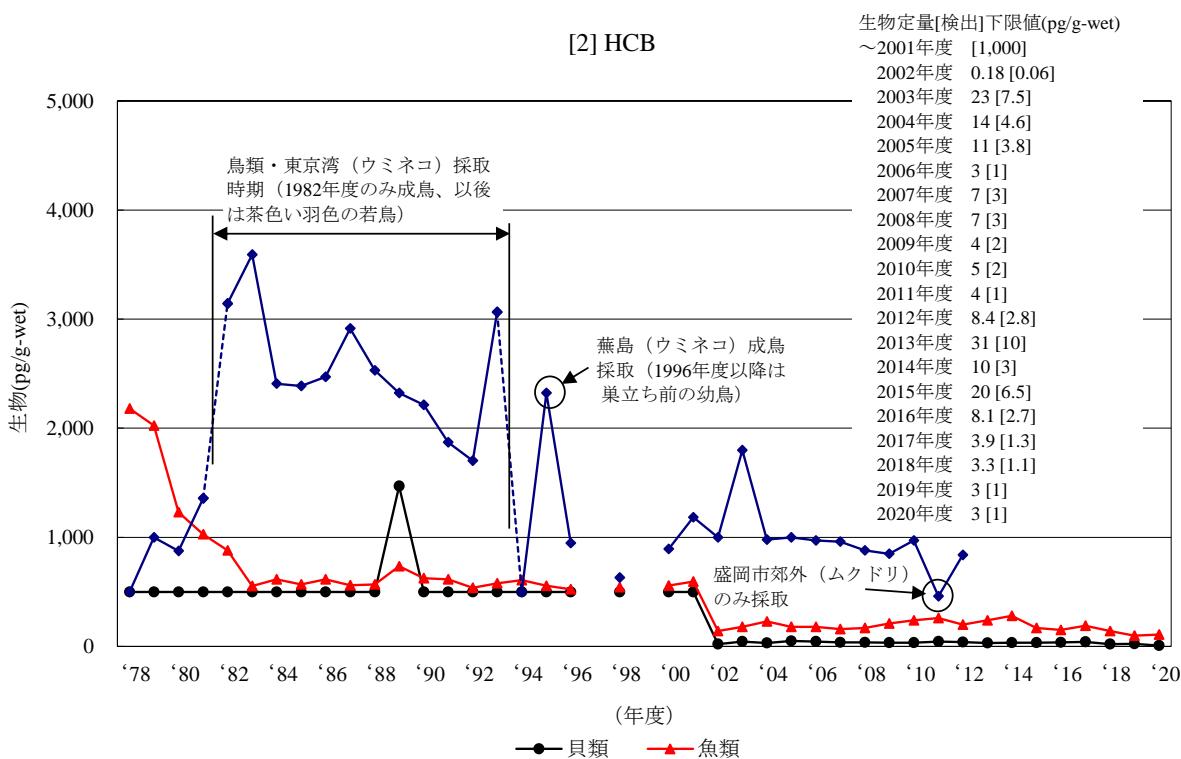
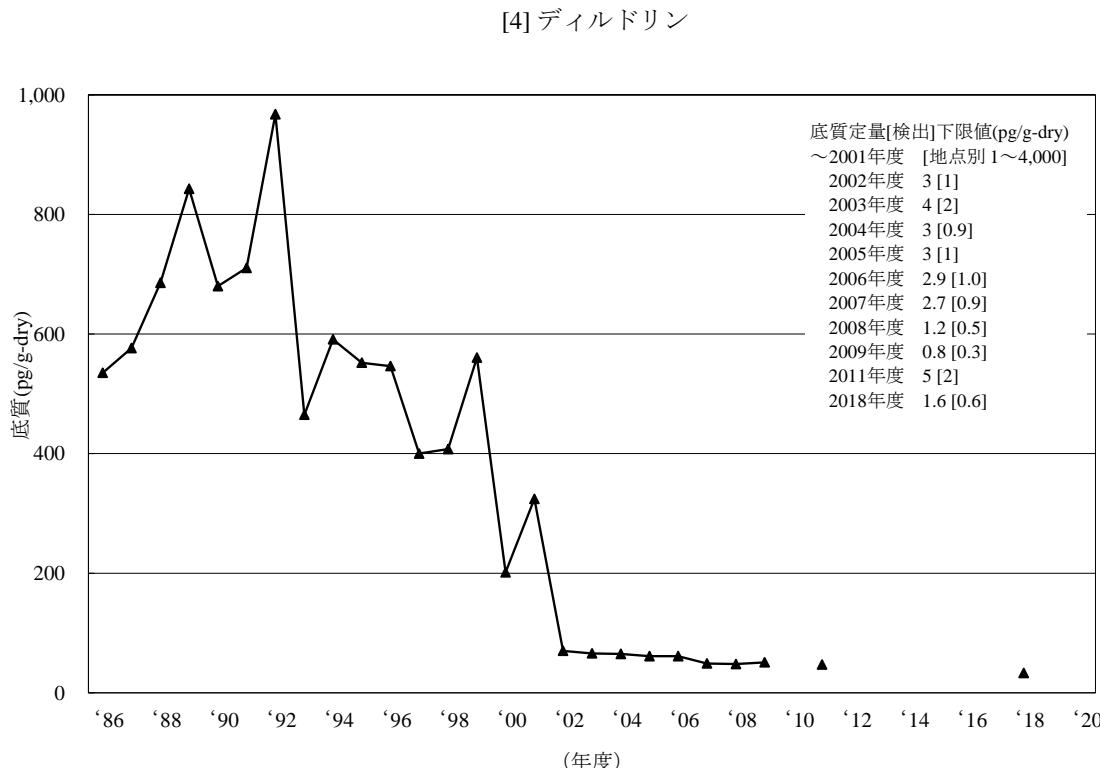


図 2-1 HCB の底質の経年変化（幾何平均値）



- (注1) 2002 年度から 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
 (注2) 鳥類は 2013 年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012 年度までの結果と 2013 年度以降の結果に継続性がないため、2013 年度以降の結果を示していない。
 (注3) 1997 年度及び 1999 年度は調査を実施していない。

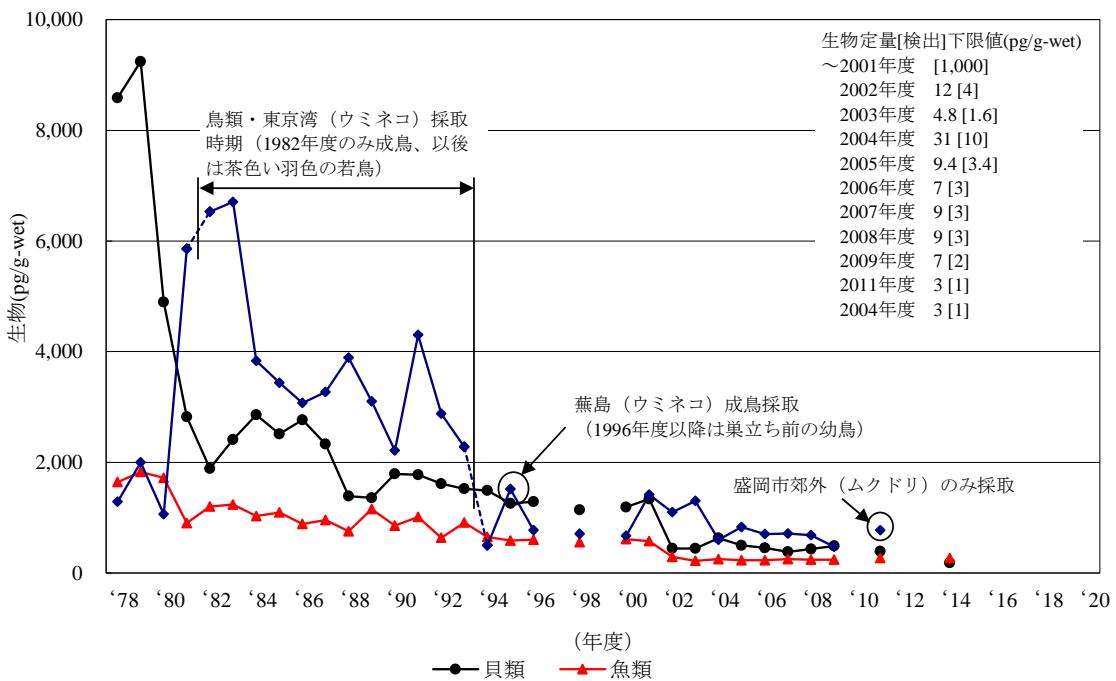
図 2-2 HCB の生物の経年変化（幾何平均値）



- (注1) 2002 年度から 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
 (注2) 2010 年度、2012 年度から 2017 年度、2019 年度及び 2020 年度は調査を実施していない。

図 3-1 ディルドリンの底質の経年変化（幾何平均値）

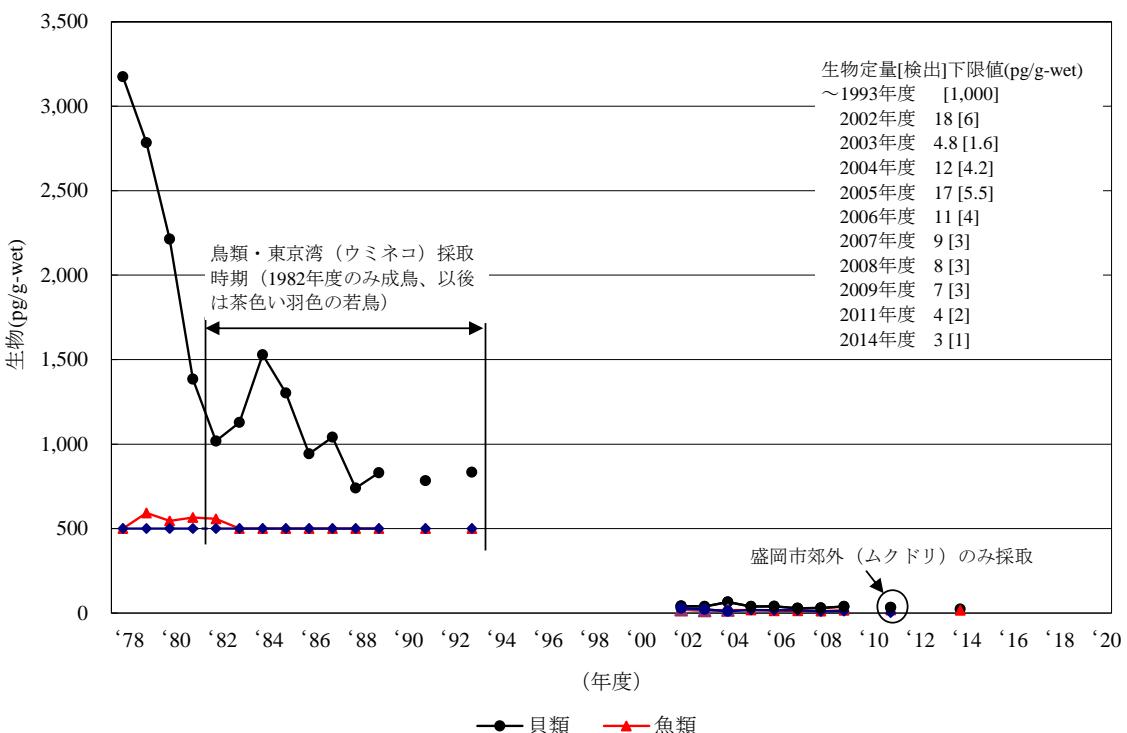
[4] ディルドリン



- (注1) 2002 年度から 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
 (注2) 鳥類は 2014 年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2011 年度までの結果と 2014 年度の結果に継続性がないため、2014 年度の結果を示していない。
 (注3) 1997 年度、1999 年度、2010 年度、2012 年度、2013 年度及び 2015 年度から 2020 年度は調査を実施していない。

図 3-2 ディルドリンの生物の経年変化（幾何平均値）

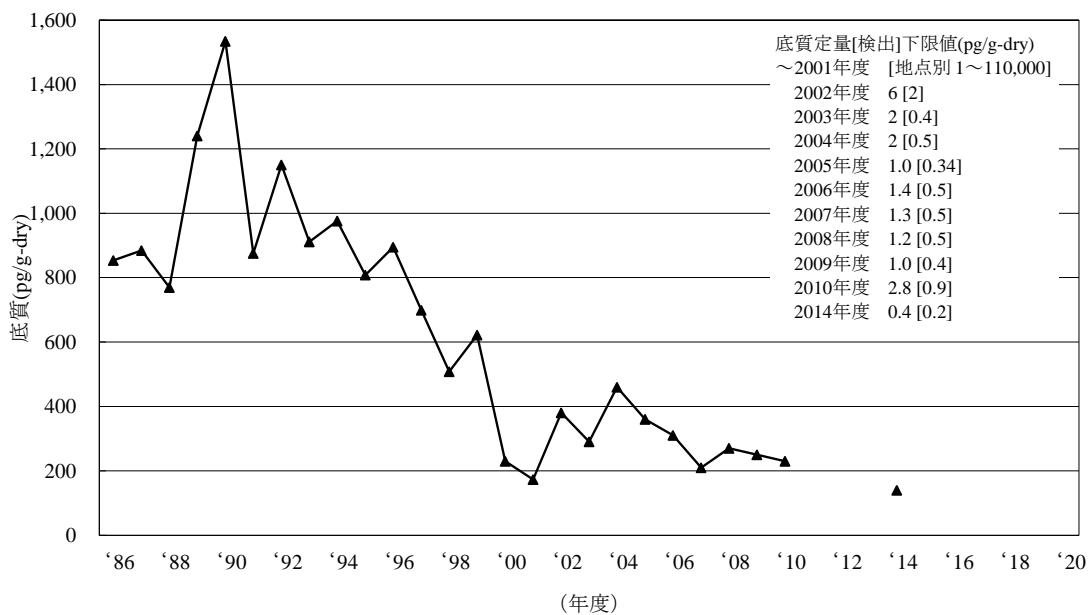
[5] エンドリン



- (注1) 2002 年度から 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
 (注2) 鳥類は 2014 年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2011 年度までの結果と 2014 年度の結果に継続性がないため、2014 年度の結果を示していない。
 (注3) 2010 年度、2012 年度、2013 年度及び 2015 年度から 2020 年度は調査を実施していない。

図 4 エンドリンの生物の経年変化（幾何平均値）

[6-1] *p,p'*-DDT

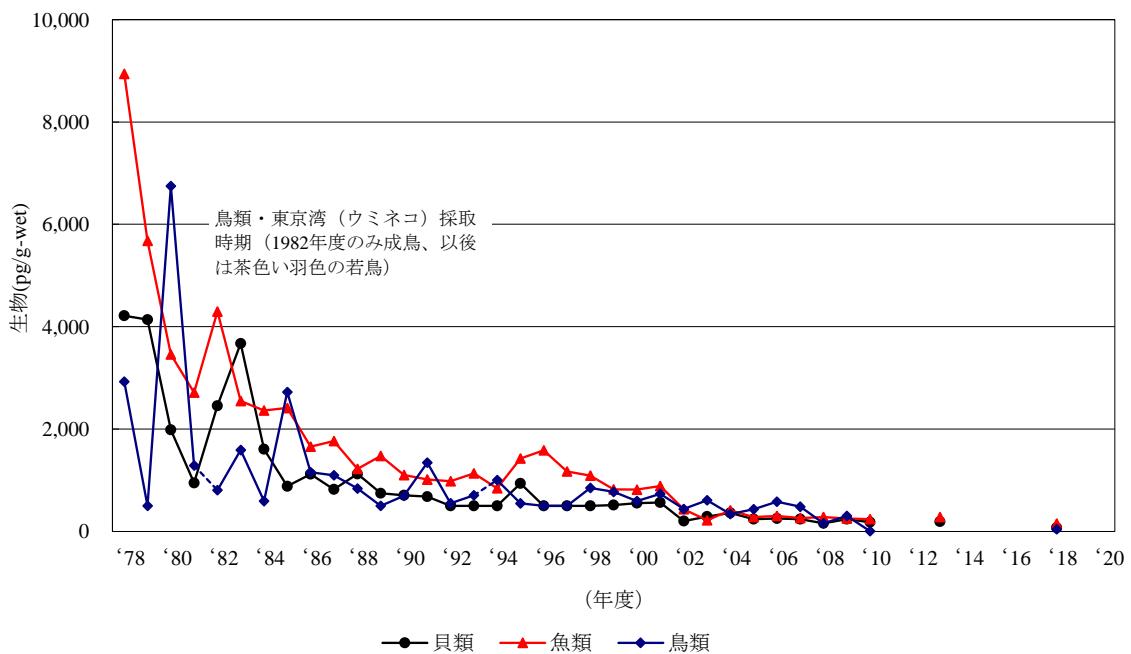


(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2011年度から2013年度及び2015年度から2020年度は調査を実施していない。

図5-1-1 *p,p'*-DDTの底質の経年変化（幾何平均値）

[6-1] *p,p'*-DDT



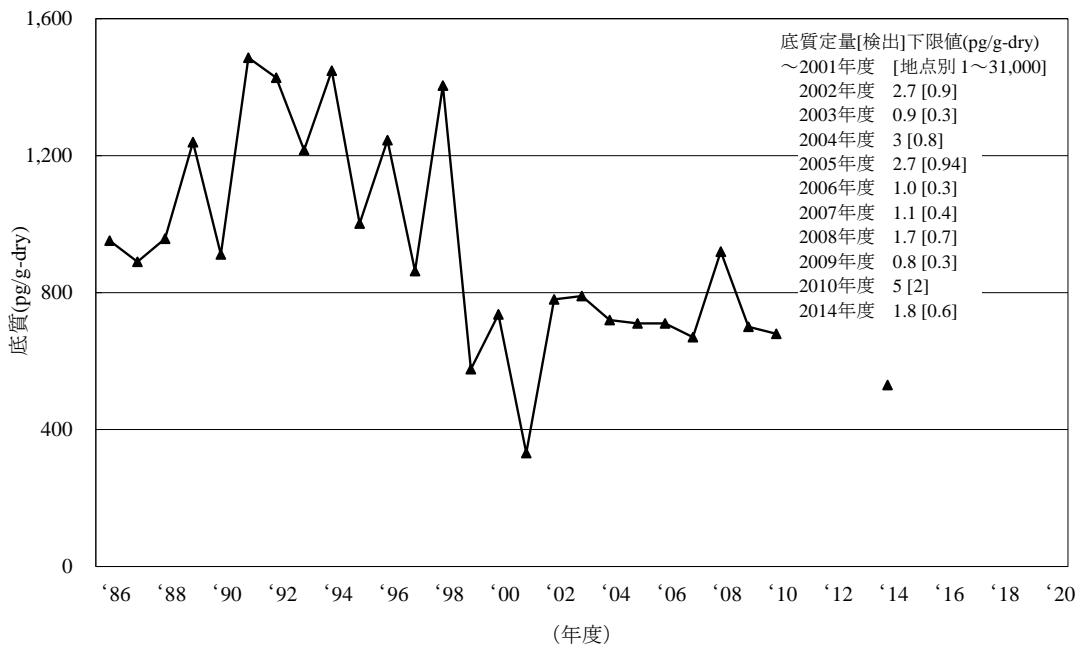
(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2010年度までの結果と2013年度以降の結果に継続性がないため、2013年度以降の結果を示していない。

(注3) 2011年度、2012年度、2014年度から2017年度、2019年度及び2020年度は調査を実施していない。

図5-1-2 *p,p'*-DDTの生物の経年変化（幾何平均値）

[6-2] *p,p'*-DDE

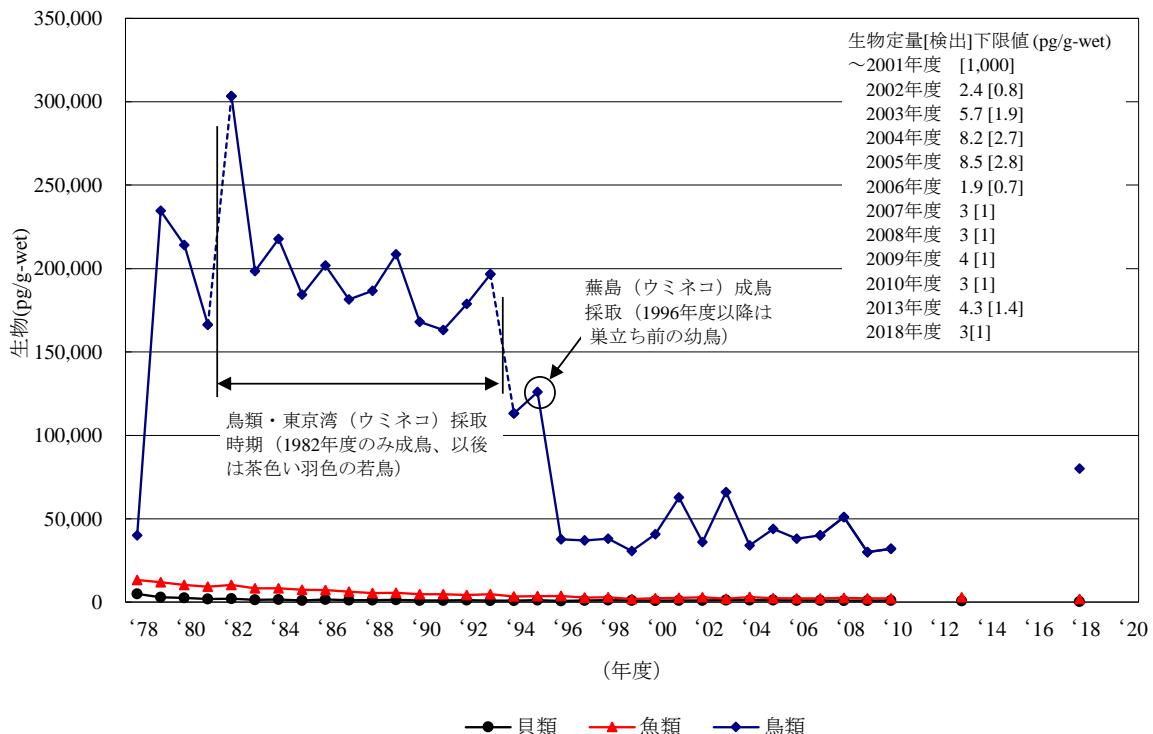


(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2011年度から2013年度、2015年度から2020年度は調査を実施していない。

図 5-2-1 *p,p'*-DDE の底質の経年変化（幾何平均値）

[6-2] *p,p'*-DDE



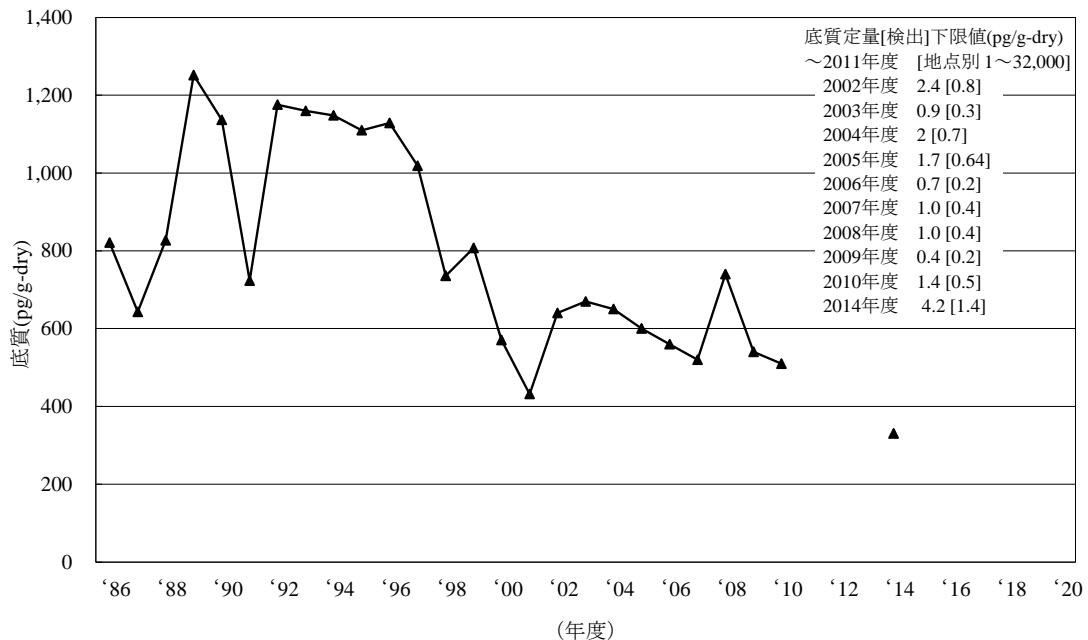
(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2010年度までの結果と2013年度以降の結果に継続性がないため、2013年度以降の結果を示していない。

(注3) 2011年度、2012年度、2014年度から2017年度、2019年度及び2020年度は調査を実施していない。

図 5-2-2 *p,p'*-DDE の生物の経年変化（幾何平均値）

[6-3] *p,p'*-DDD

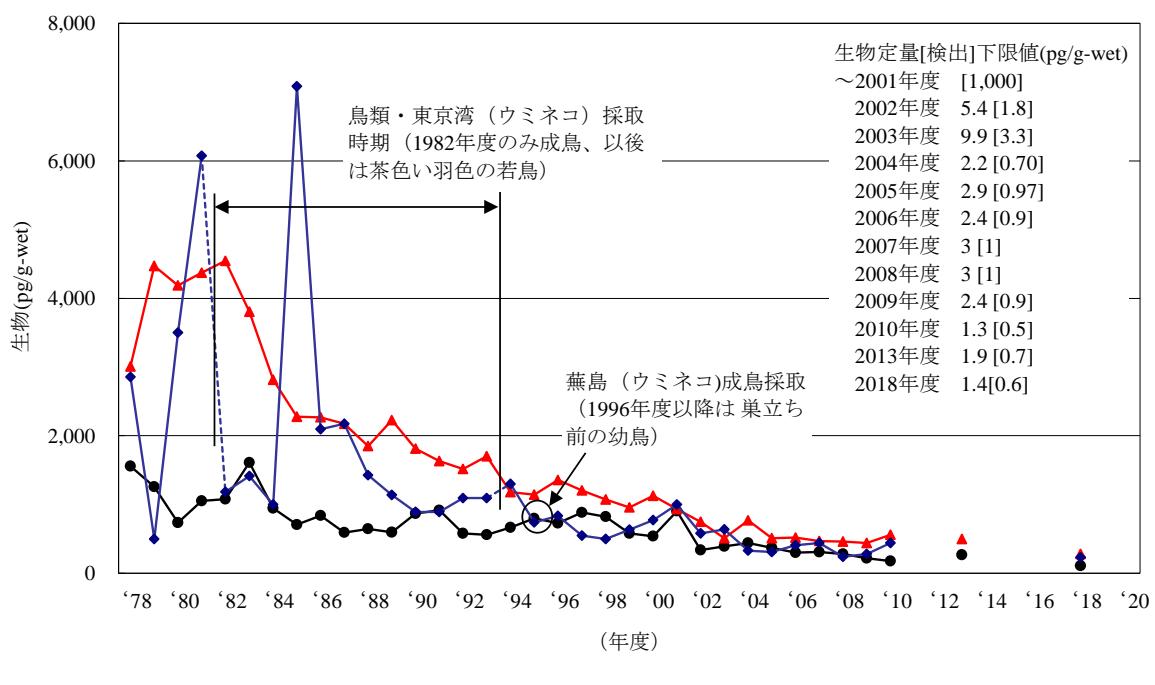


(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2011年度から2013年度、2015年度から2020年度は調査を実施していない。

図 5-3-1 *p,p'*-DDD の底質の経年変化（幾何平均値）

[6-3] *p,p'*-DDD



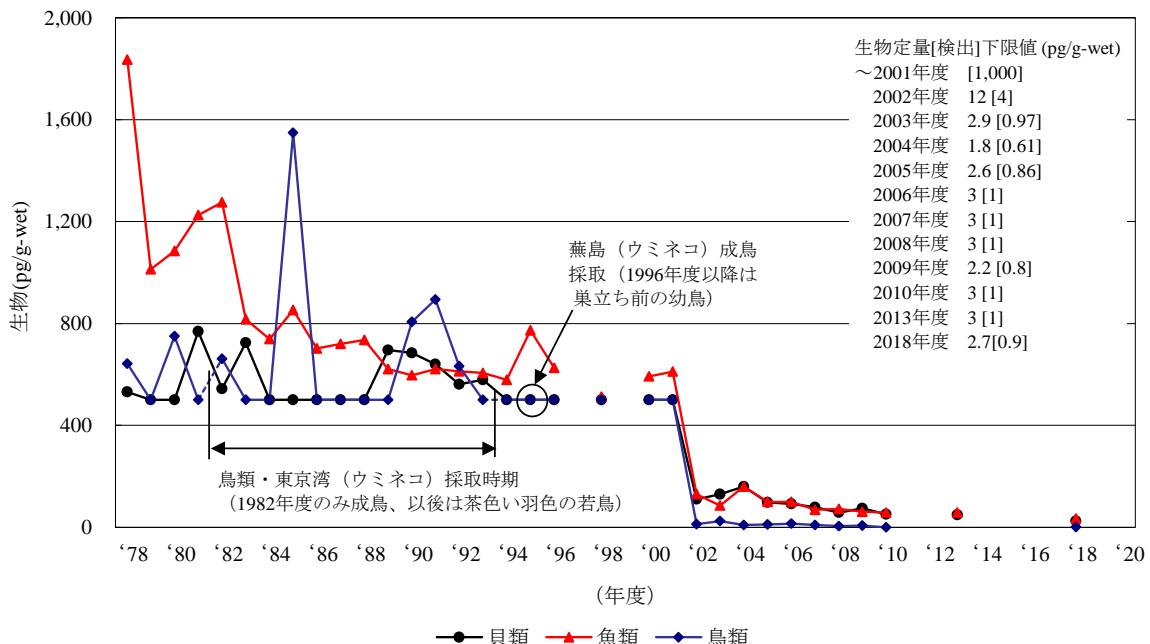
(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2010年度までの結果と2013年度以降の結果に継続性がないため、2013年度以降の結果を示していない。

(注3) 2011年度、2012年度、2014年度から2017年度、2019年度及び2020年度は調査を実施していない。

図 5-3-2 *p,p'*-DDD の生物の経年変化（幾何平均値）

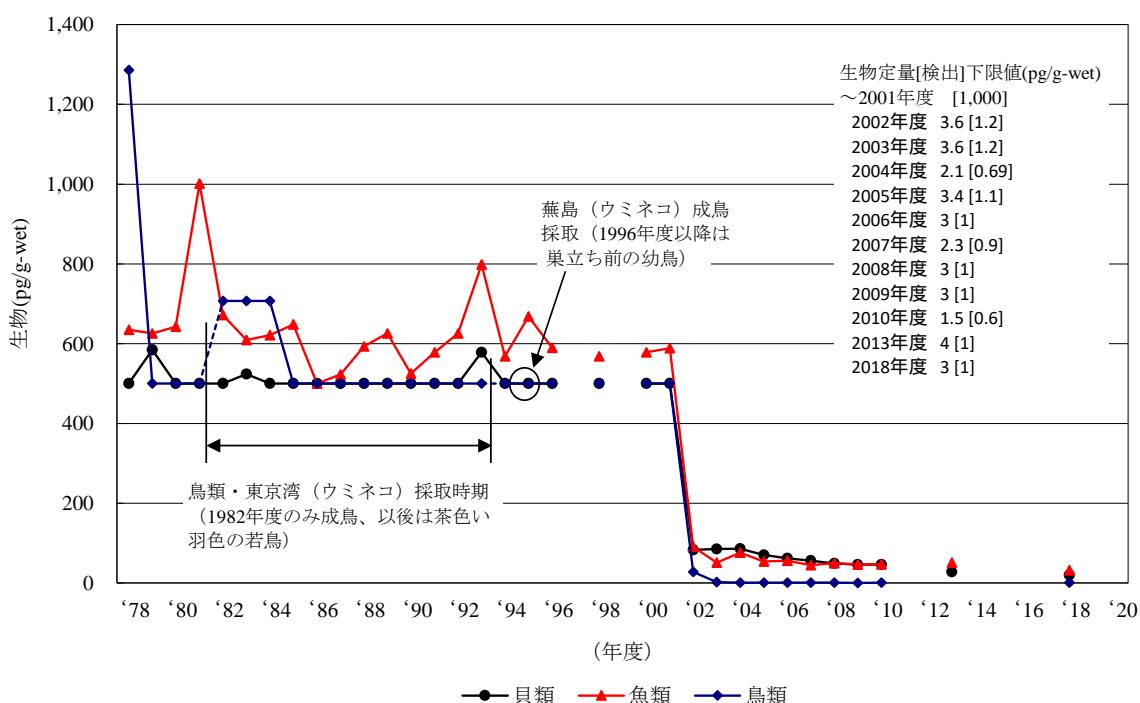
[6-4] *o,p'*-DDT



- (注 1) 2002 年度から 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注 2) 鳥類は 2013 年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2010 年度までの結果と 2013 年度以降の結果に継続性がないため、2013 年度以降の結果を示していない。
- (注 3) 1997 年度、1999 年度、2011 年度、2012 年度、2014 年度から 2017 年度、2019 年度及び 2020 年度は調査を実施していない。

図 5-4 *o,p'*-DDT の生物の経年変化（幾何平均値）

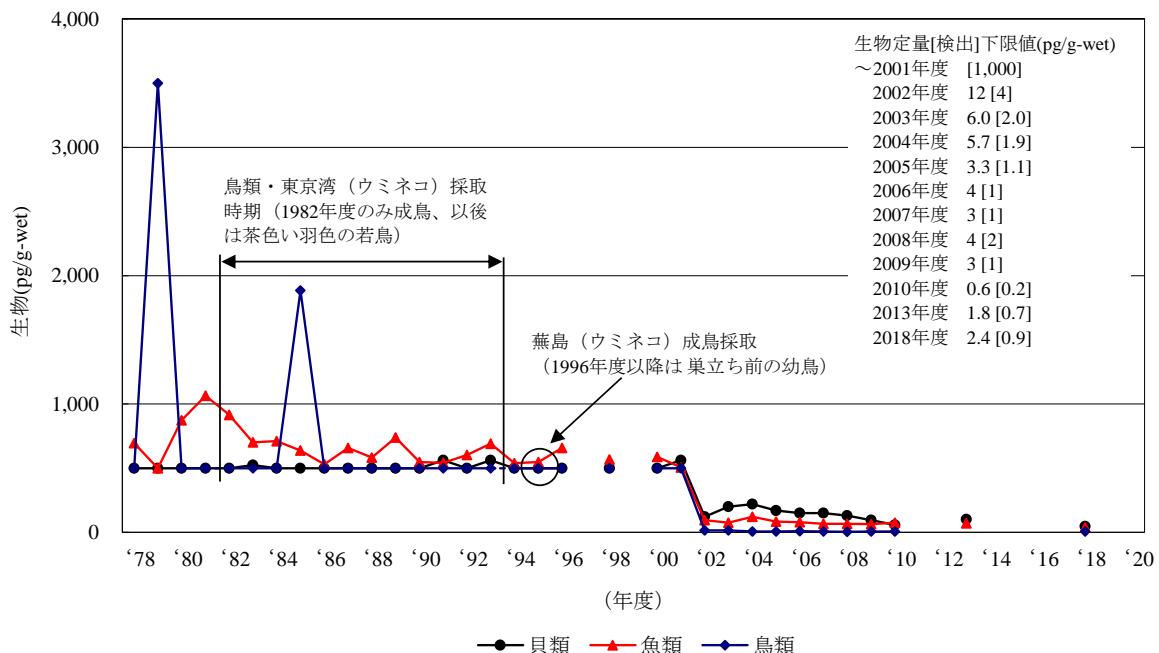
[6-5] *o,p'*-DDE



- (注 1) 2002 年度から 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注 2) 鳥類は 2013 年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2010 年度までの結果と 2013 年度以降の結果に継続性がないため、2013 年度以降の結果を示していない。
- (注 3) 1997 年度、1999 年度、2011 年度、2012 年度、2014 年度から 2017 年度、2019 年度及び 2020 年度は調査を実施していない。

図 5-5 *o,p'*-DDE の生物の経年変化（幾何平均値）

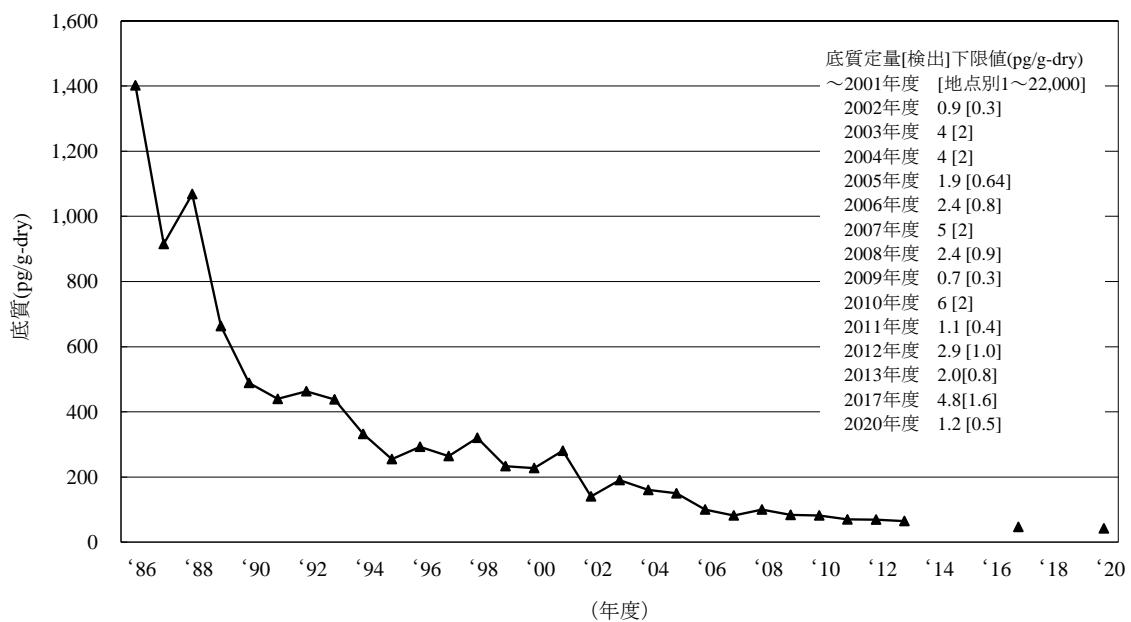
[6-6] *o,p'*-DDD



- (注 1) 2002 年度から 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
 (注 2) 鳥類は 2013 年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2010 年度までの結果と 2013 年度以降の結果に継続性がないため、2013 年度以降の結果を示していない。
 (注 3) 1997 年度、1999 年度、2011 年度、2012 年度、2014 年度から 2017 年度、2019 年度及び 2020 年度は調査を実施していない。

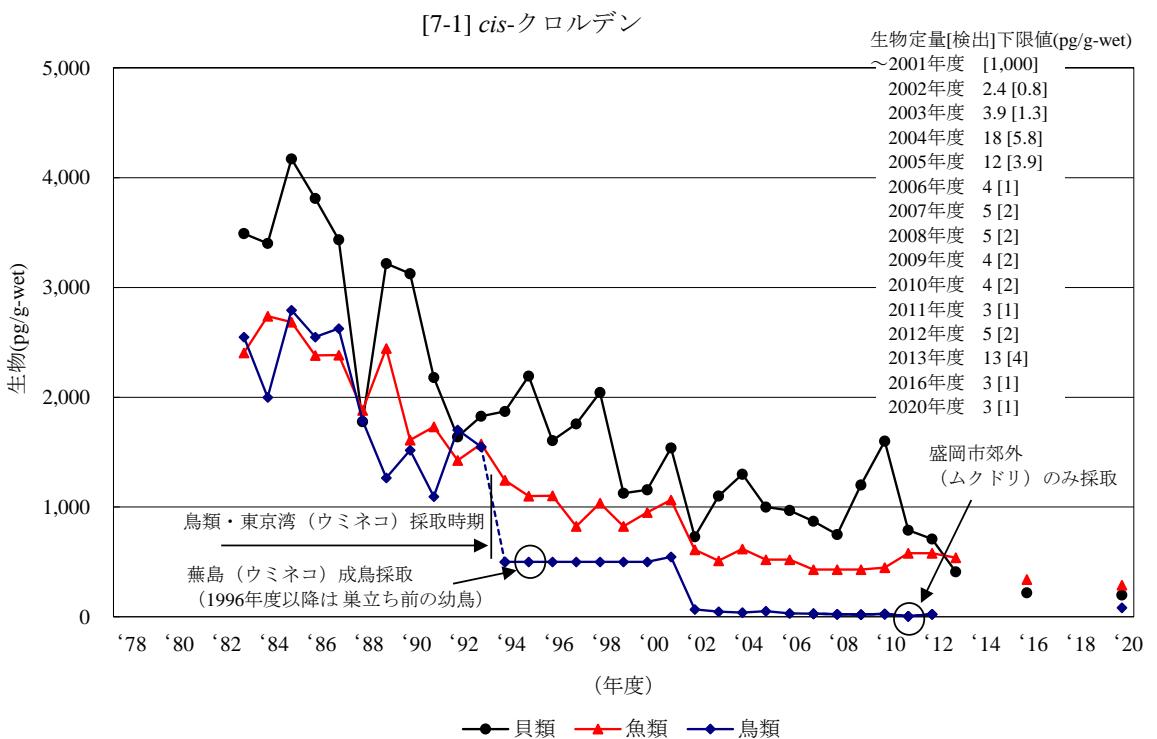
図 5-6 *o,p'*-DDD の生物の経年変化（幾何平均値）

[7-1] cis-クロルデン



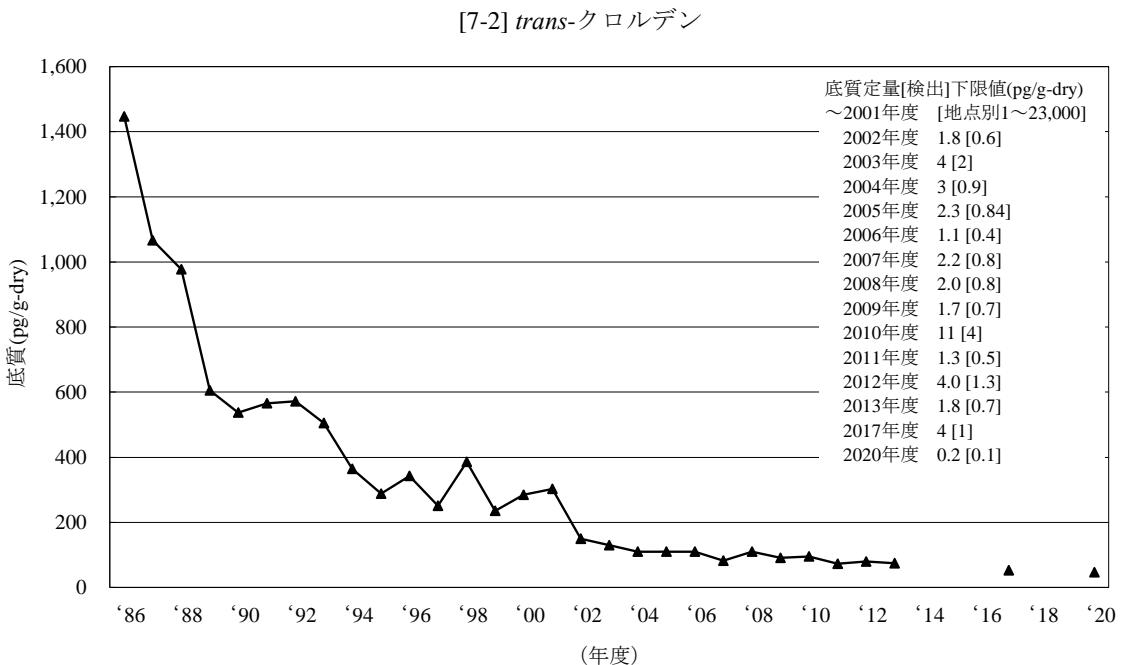
- (注 1) 2002 年度から 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
 (注 2) 2014 年度から 2016 年度、2018 年及び 2019 年度は調査を実施していない。

図 6-1-1 cis-クロルデンの底質の経年変化（幾何平均値）



- (注 1) 2002 年度から 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
 (注 2) 鳥類は 2013 年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2010 年度までの結果と 2013 年度以降の結果に継続性がないため、2013 年度以降の結果を示していない。
 (注 3) 2014 年度、2015 年度及び 2017 年度から 2019 年度は調査を実施していない。

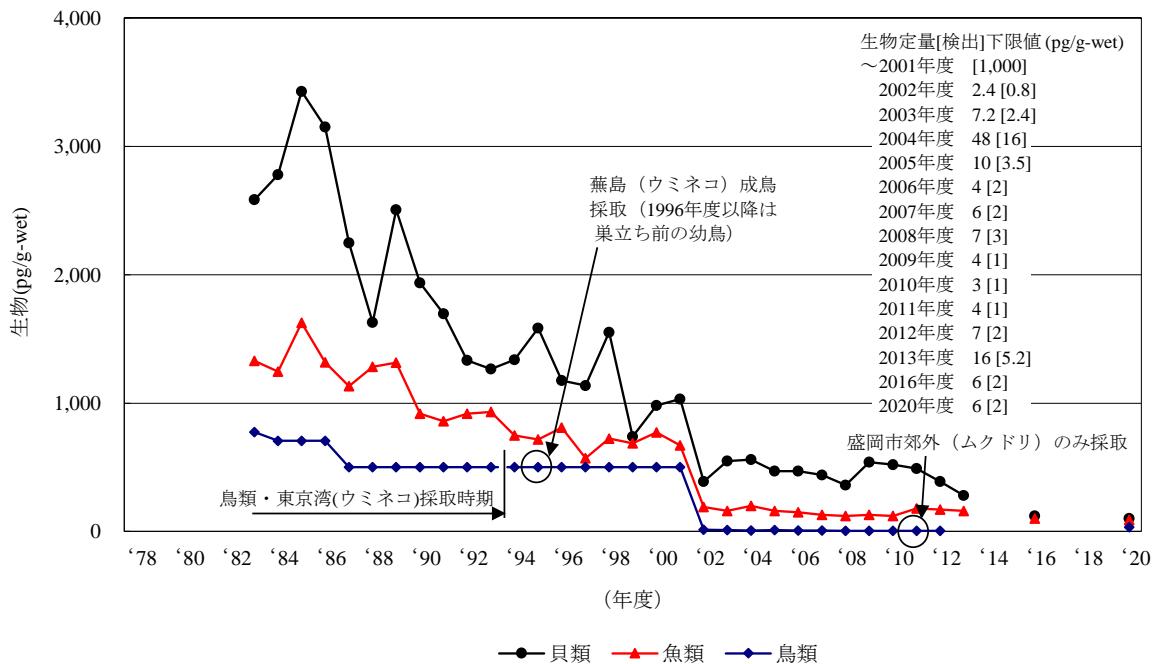
図 6-1-2 *cis*-クロルデンの生物の経年変化（幾何平均値）



- (注 1) 2002 年度から 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
 (注 2) 2014 年度から 2016 年度、2018 年及び 2019 年度は調査を実施していない。

図 6-2-1 *trans*-クロルデンの底質の経年変化（幾何平均値）

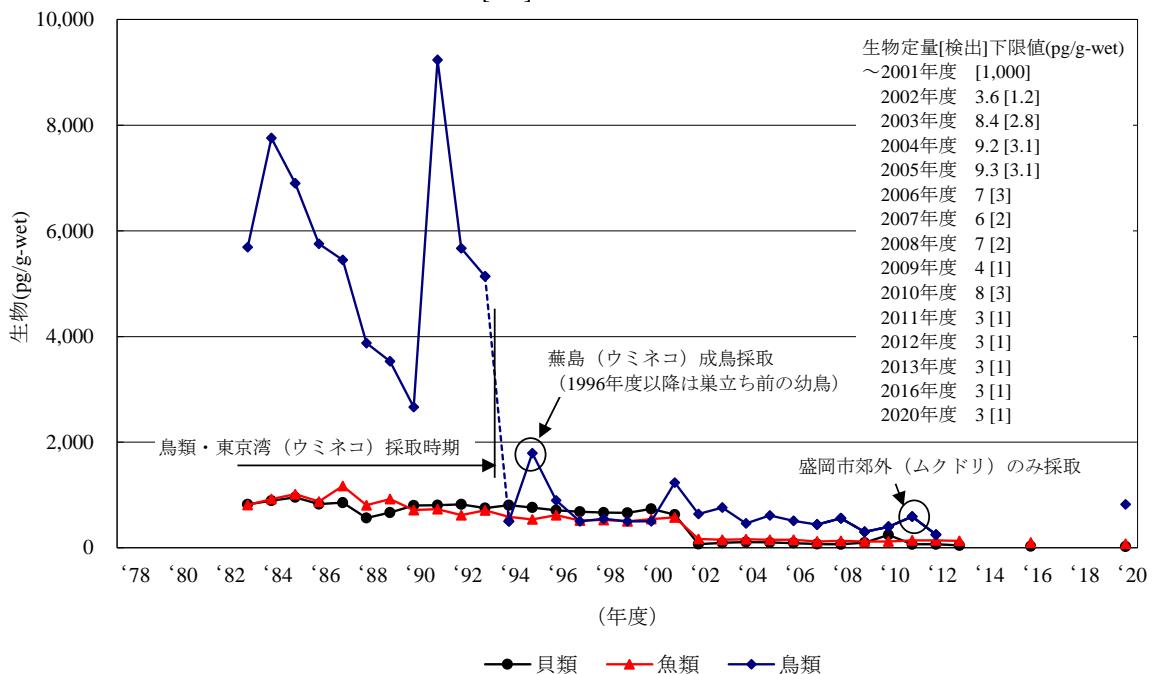
[7-2] *trans*-クロルデン



- (注1) 2002 年度から 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は 2013 年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2010 年度までの結果と 2013 年度以降の結果に継続性がないため、2013 年度以降の結果を示していない。
- (注3) 2014 年度、2015 年度及び 2017 年度から 2019 年度は調査を実施していない。

図 6-2-2 *trans*-クロルデンの生物の経年変化（幾何平均値）

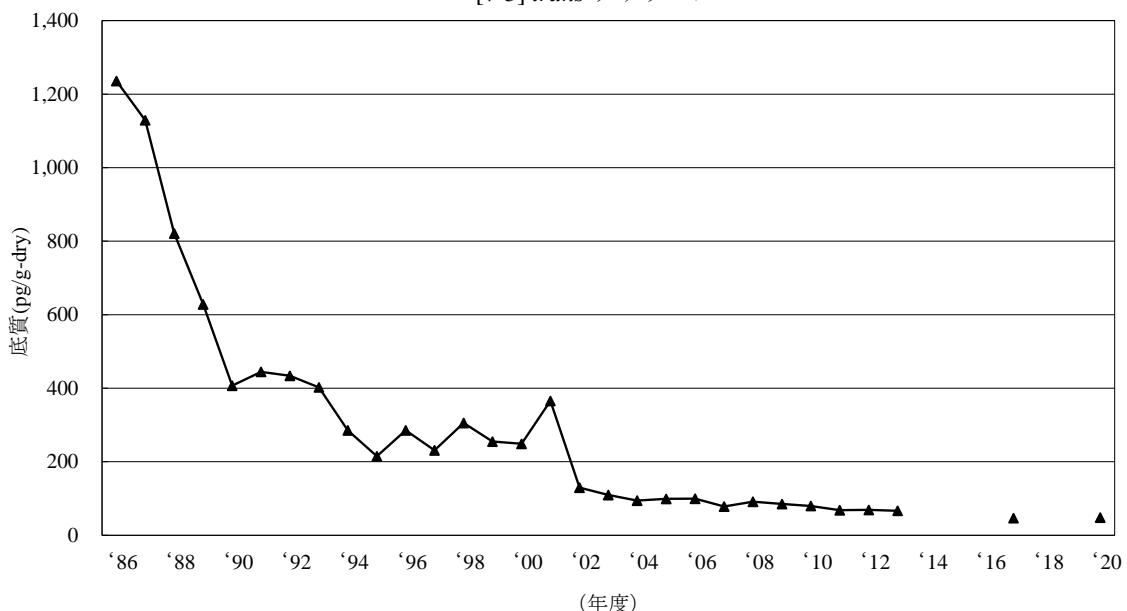
[7-3] オキシクロルデン



- (注1) 2002 年度から 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は 2013 年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2010 年度までの結果と 2013 年度以降の結果に継続性がないため、2013 年度以降の結果を示していない。
- (注3) 2014 年度、2015 年度及び 2017 年度から 2019 年度は調査を実施していない。

図 6-3 オキシクロルデンの生物の経年変化（幾何平均値）

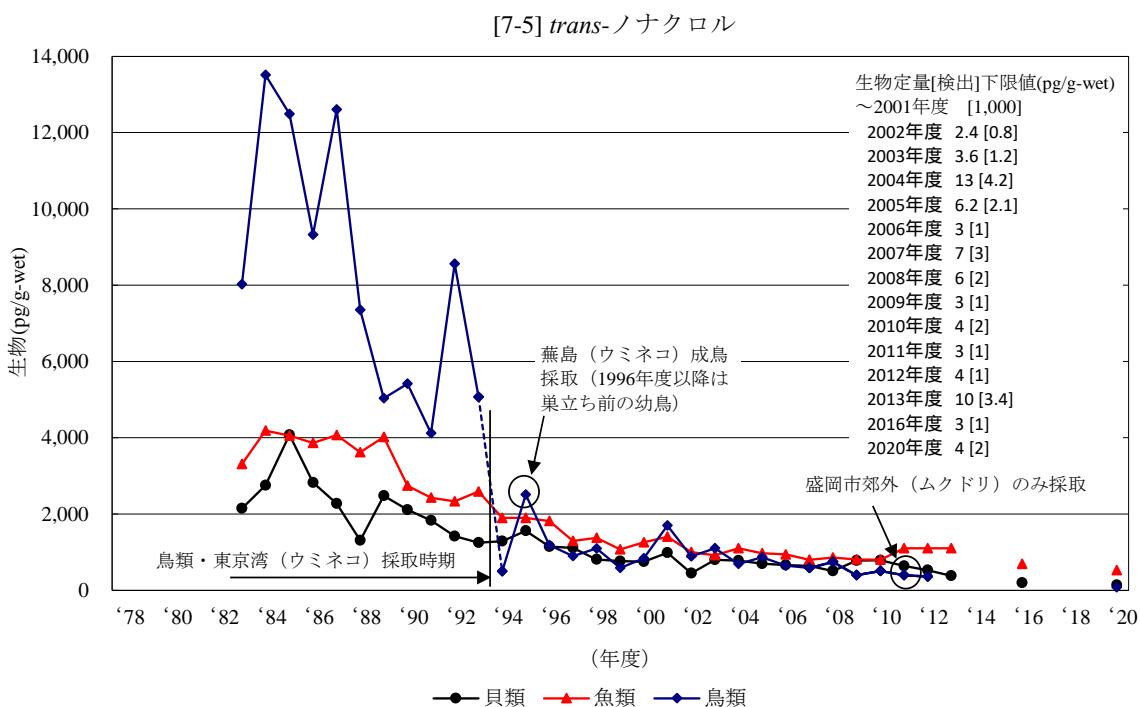
[7-5] *trans*-ノナクロル



(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2014年度から2016年度、2018年及び2019年度は調査を実施していない。

図 6-5-1 *trans*-ノナクロルの底質の経年変化（幾何平均値）



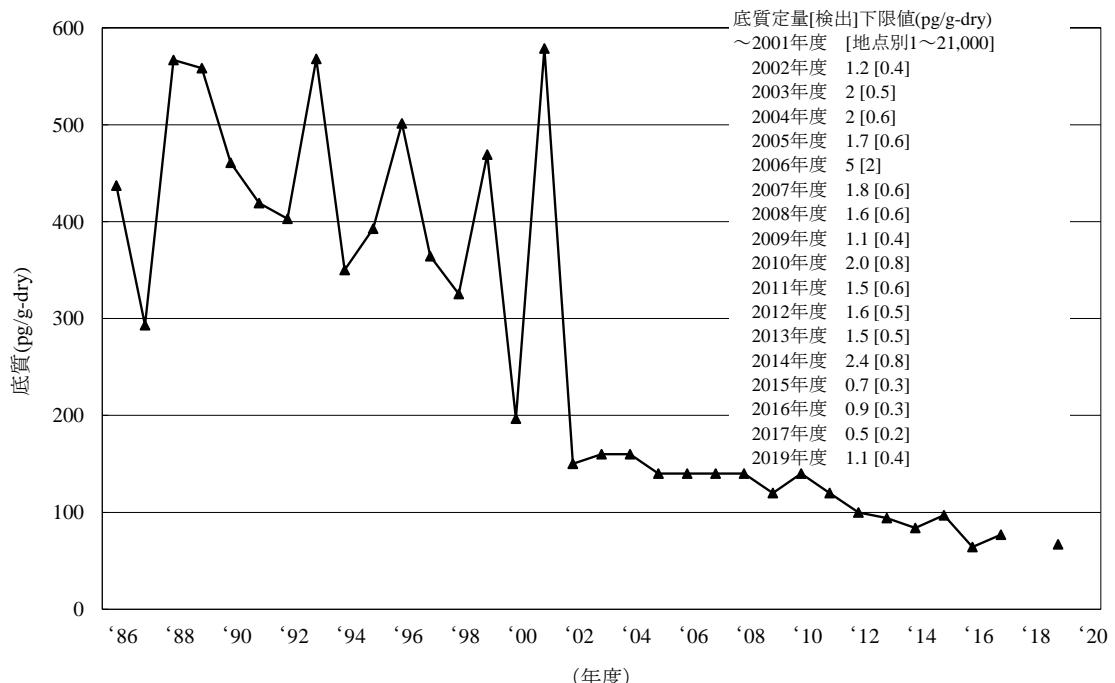
(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2010年度までの結果と2013年度以降の結果に継続性がないため、2013年度以降の結果を示していない。

(注3) 2014年度、2015年度及び2017年度から2019年度は調査を実施していない。

図 6-5-2 *trans*-ノナクロルの生物の経年変化（幾何平均値）

[11-1] α -HCH

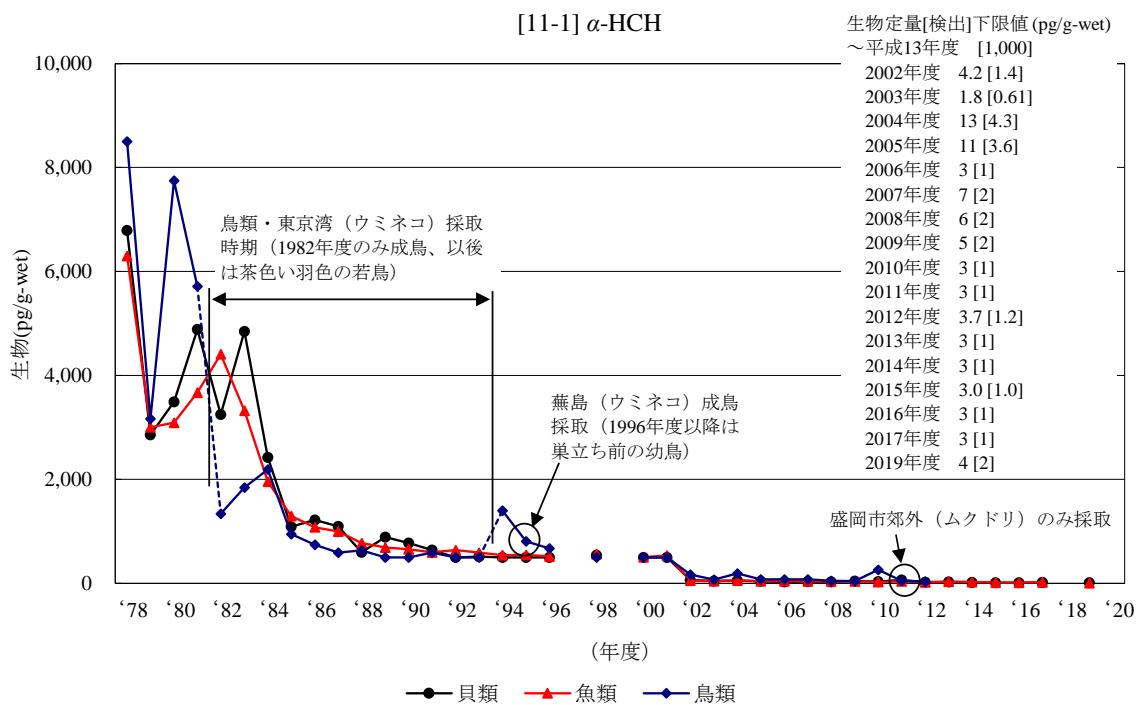


(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2018年度及び2020年度は調査を実施していない。

図 7-1-1 α -HCH の底質の経年変化（幾何平均値）

[11-1] α -HCH

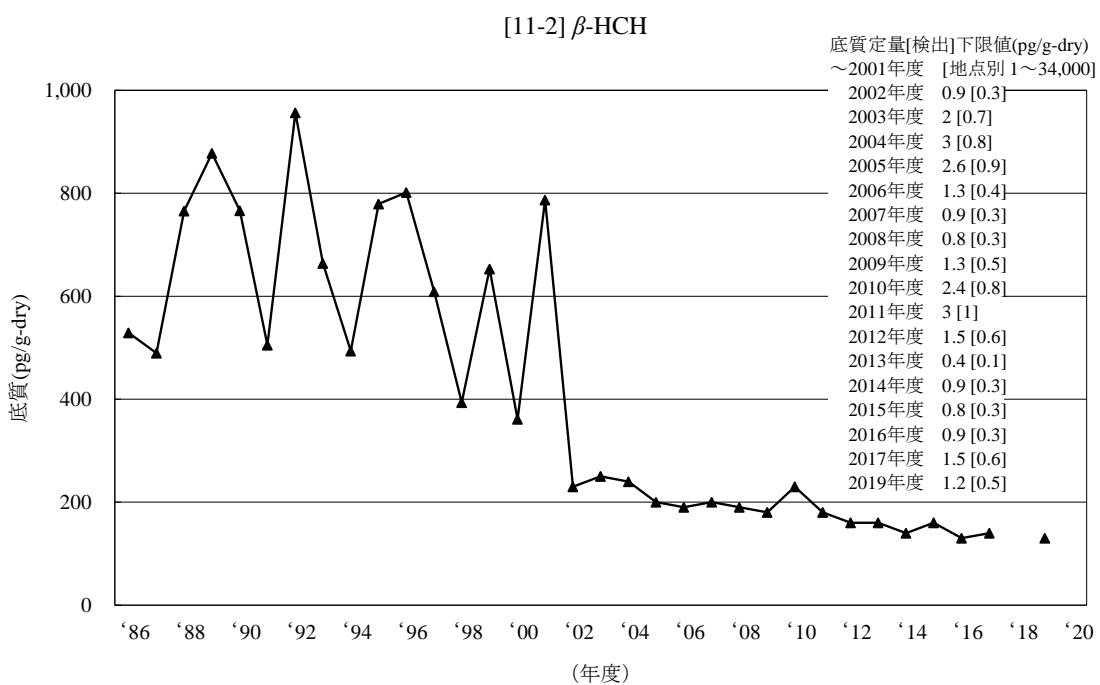


(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と2013年度以降の結果に継続性がないため、2013年度以降の結果を示していない。

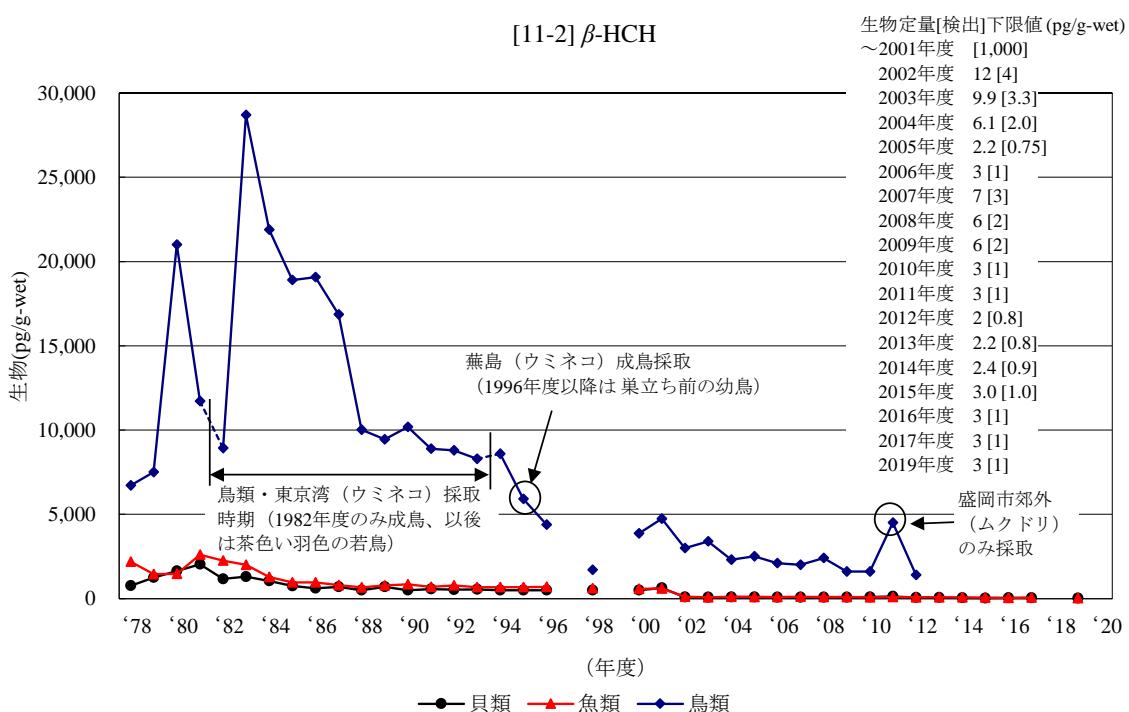
(注3) 2018年度及び2020年度は調査を実施していない。

図 7-1-2 α -HCH の生物の経年変化（幾何平均値）



(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
 (注2) 2018年度及び2020年度は調査を実施していない。

図7-2-1 β -HCHの底質の経年変化（幾何平均値）



(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
 (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と2013年度以降の結果に継続性がないため、2013年度以降の結果を示していない。
 (注3) 2018年度及び2020年度は調査を実施していない。

図7-2-2 β -HCHの生物の経年変化（幾何平均値）

